

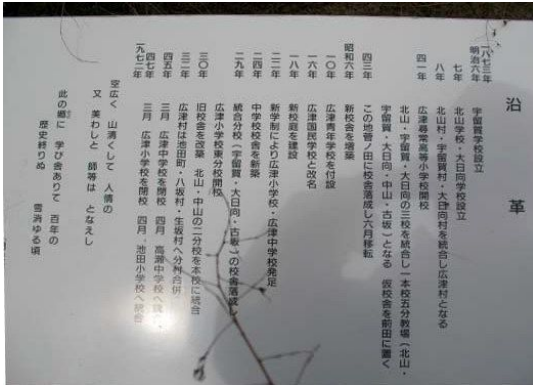
「広津よ永遠に」 シリーズ その3 2010.12.13

池田町は松川村と高瀬川を挟んで並んでいる。池田町は人口が減り、松川村は村としては珍しく増加の一途である。この違いは何故か？私の見解はまずJRと国道が松川村には通っているのが一番の理由ではないか。それと松川村には開拓地が多かった。飯山地方などから来て、「開拓組合」なども結成された。石ころの多い土地を一生懸命開拓したようだ。その人達が落ち着いて、家を新築する、子供の学資金、結婚資金等出費の為に土地を宅地として売った。いわゆる「先祖代々」の土地ではなく、自らが汗と苦勞で開拓した土地なので、手放す事は自由であったのでは。丁度昭和40年代から宅地を欲しがる人達が多くなり、かつ松本市から地価の安い豊科～穂高～松川へと移動した。特に近年は安曇野市の地価が高くなり、比較的安価な松川村が人気になっている。その証拠として安曇野市の人口はなかなか10万人にならないで足踏みを続けている。松川村は1万人を越えた。車社会とは言え、通学、飲酒などで矢張りJRは必要だ。松川村は国道を境に西はおおむね「農振地区」だが東側は農地の「宅地転換」ができたので、特に細野にかけて宅地化が進んだ。大町市は積雪が多くなるが、松川村までは少ない。そんな訳で松川村へは「小谷村」や池田町の「広津」などの過疎地からの転居者が多い。しかし、池田町には「厚生連 安曇総合病院」や池田工業高校、町立美術館、養護学校などがある。家を建てるなら私は絶対「池田町」をお薦めします。理由の第一は「北アルプスの展望」です。安曇野市の穂高温泉郷付近には沢山の別荘や転入者の家があるが、あまりにも山に近いので逆にアルプスが見えない。松川村からは見えるが限定的だ。その点池田町からのアルプスの展望は素晴らしい。特に県道大町～明科線の東側。とりわけ美術館付近や堀之内地区付近は少し高台でもあり素晴らしい。地価も比較的安い。町の活性化のためにドンドン「宅地化」を進めるべきと思うのだが。

池田町からはオリンピック選手も出た。札幌冬季のスピードスケートの小野沢良子さん。(現姓 塚田)それとソウルオリンピックで4位入賞などのマラソンの中山竹通選手。彼は広津の出身である。

本題に戻り、広津の自慢や珍しいものは何か？。毎月「広津の様子」を含めて順次報告したいと思っています。今回は「広津学校」について。現在広津の菅の田に町が学校跡の記念碑や東屋などを建設してある。

(写真参照)



広津学校の沿革の石碑



広津学校の体育館



広津学校跡の記念碑



広津小、中学校跡。記念碑

しかし残念な事に訪れる人は少ない。その「沿革」などによると、明治6年宇留賀学校設立。7年北山学校設立。大日向学校設立。41年広津尋常高等小学校開校。北山、宇留賀、大日向の3校を統合し、1本校、5分教場（北山、宇留賀、大日向、中山、古坂）となる。仮校舎を広津の前田に置く。43年この地菅の田に校舎落成し6月移転。昭和6年新校舎増築。10年広津青年学校を付設。16年広津国民学校と改名。18年新校庭を建設。22年新学制により、広津小学校、広津中学校発足。24年中学校校舎を新築。29年統合分校（宇留賀、大日向、古坂）の校舎落成し、広津小学校東分校開校。30年旧校舎を改築、北山、中山の2分校を本校に統合。32年広津村は池田町、生坂村、八坂村（最近、大町市に合併）に分村合併。

昭和45年広津中学を閉校、高瀬中学へ。昭和47年、広津小学校を閉校、池田小学校へ。と記されている。

そんな変遷があった。体育館、校庭（今はマレットゴルフ場になっているが平地の少ない地域ゆえに大都会の校庭のような広さしかない）、校舎は「ハーブの里共同作業所」（障害者の作業所）の看板が今もあるが現在は使われていない。近くには教員住宅もある。（今は空家）